

# 令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本年度実施されました「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されましたので、経年変化と合わせて本校の状況についてお知らせいたします。

## 全体傾向

### 1. 自己肯定感の高水準を維持

| 年度  | 肯定率   | 「自分には、よいところがあると思いますか」                                                                         |
|-----|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| H31 | 70.9% | 令和6年度に大きく向上し、その後やや低下したものの、平成31年度や令和4・5年度より高い水準を維持しています。生徒の自己有用感・自己肯定感を育てる取組の成果が定着していると考えられます。 |
| R4  | 70.6% |                                                                                               |
| R5  | 71.3% |                                                                                               |
| R6  | 90.2% |                                                                                               |
| R7  | 85.8% |                                                                                               |
| R8  | 83.0% |                                                                                               |

### 2. 教師との信頼関係は大幅改善

| 年度  | 肯定率   | 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」 |
|-----|-------|-------------------------------|
| H31 | 82.3% | 令和6年度以降は90%を超えて推移しています。       |
| R5  | 80.1% |                               |
| R6  | 95.1% |                               |
| R7  | 92.9% |                               |
| R8  | 94.3% |                               |

| 年度 | 肯定率   | また、「困った時に先生へ相談できる」                              |
|----|-------|-------------------------------------------------|
| R4 | 62.8% | 相談体制についても明確な改善が見られます。教職員と生徒の関係は学校の大きな強みとなっています。 |
| R5 | 66.3% |                                                 |
| R6 | 78.1% |                                                 |
| R7 | 76.8% |                                                 |
| R8 | 79.3% |                                                 |

### 3. 学校満足度は高位安定

| 年度  | 肯定率   | 「学校に行くのは楽しい」                           |
|-----|-------|----------------------------------------|
| H31 | 81.0% | 令和7年度が最も高く、令和8年度はやや低下しましたが依然8割を維持しています |
| R3  | 81.2% |                                        |
| R5  | 82.5% |                                        |
| R6  | 85.4% |                                        |
| R7  | 88.9% |                                        |
| R8  | 80.2% |                                        |

### 4. 友人関係の満足度は非常に高い

| 年度 | 肯定率   | 「友達関係に満足していますか」                           |
|----|-------|-------------------------------------------|
| R5 | 86.3% | 生徒同士の関係は良好で、安心して生活できる学級集団が形成されていると考えられます。 |
| R6 | 96.3% |                                           |
| R7 | 92.9% |                                           |
| R8 | 89.6% |                                           |

## 学習面の変化

### 5. 主体的な学びが向上

| 年度  | 肯定率   | 「課題解決に向けて自分で考え取り組んだ」                        |
|-----|-------|---------------------------------------------|
| H31 | 69.6% | 近年着実に上昇しています。学習活動の改善や探究的学習の成果が表れていると考えられます。 |
| R4  | 73.0% |                                             |
| R5  | 77.5% |                                             |
| R6  | 79.2% |                                             |
| R7  | 78.7% |                                             |
| R8  | 80.2% |                                             |

### 6. 振り返り・学習改善能力の向上

| 年度 | 肯定率   | 「学習した内容を振り返り次につなげる」                            |
|----|-------|------------------------------------------------|
| R4 | 67.9% | 令和8年度は大きく上昇しています。生徒が学びを自己調整する力が伸びていることがうかがえます。 |
| R5 | 68.8% |                                                |
| R6 | 72.0% |                                                |
| R7 | 69.7% |                                                |
| R8 | 83.0% |                                                |

### 7. ICT活用能力は大きく向上

令和8年度では、

情報収集ができる 85.9%  
文章作成ができる 80.2%  
プレゼン資料作成ができる 75.5%  
情報整理ができる 64.2%

となっています。いずれも令和7年度より上昇しています。GIGAスクール構想による1人1台端末活用が定着していることが読み取れます。

## 生活習慣

### 8. 朝食習慣は安定

| 年度  | 肯定率   | 「毎日朝食を食べる」                   |
|-----|-------|------------------------------|
| H31 | 92.4% | 概ね9割前後で推移しています。大きな課題は見られません。 |
| R4  | 87.1% |                              |
| R5  | 91.3% |                              |
| R6  | 89.0% |                              |
| R7  | 88.9% |                              |
| R8  | 88.6% |                              |

### 9. 就寝時刻は改善傾向

| 年度  | 肯定率   | 「同じ時刻に寝ている」                                         |
|-----|-------|-----------------------------------------------------|
| H31 | 77.2% | 大きな変化はありませんが、令和8年度はやや低下しています。SNS・動画視聴時間との関連が考えられます。 |
| R4  | 78.2% |                                                     |
| R6  | 79.3% |                                                     |
| R7  | 79.8% |                                                     |
| R8  | 74.6% |                                                     |

## 1. 学校の強みとして評価できる点

### (1) 「安心・安全な学校」が実現できている

生徒の自己肯定感、教師との信頼関係、友人関係満足度の3つが非常に高い水準にあります。特に、

- ・自分によいところがあると思う: 83.0%
- ・先生がよいところを認めてくれる: 94.3%
- ・友達関係に満足している: 89.6%
- ・幸せな気持ちになることがある: 91.6%

となっています。

- これは、
- ・生徒指導が機能している
- ・学級経営が安定している
- ・教職員と生徒の関係が良好である

ことを示しています。

全国的にも思春期の中学生で自己肯定感が8割を超えるのは容易ではありません。

### (2) 主体的な学びが育っている

次の項目は近年明らかに改善しています。

- ・課題解決に向けて自分で取り組む
- ・学習を振り返る
- ・学びを実生活につなげる
- ・総合的な学習で課題を探究する などです。

### (3) ICT活用は学校の大きな成果

令和8年度は

- ・情報収集できる 85.9%
- ・文章作成できる 80.2%
- ・スライド作成できる 75.5% となっています。

## 調査全体から分かる R8 年度 3 年生の生徒像

自己肯定感が高く、友人関係も良好であることが分かります。教員との信頼関係が強く、主体的な学びの力の向上が見られます。また、ICT 活用能力が大きく伸びています。その一方で、国語・数学の授業理解度は伸びていますが、好意度（教科を好きだと思ふ気持ち）は低下していることが分かりました。

# 全国学力・学習状況調査の結果分析

今年度4月に本校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとまりましたので、本校生徒の状況をお伝えします。教科の結果としましては、数学は全国平均と同等、国語は全国平均を上回るものでした。各教科の分析結果及び、生徒質問紙調査の分析結果は下記内容をご覧ください。

## 国語

### 《 問題のポイント 》

昨年度同様に、話し合いでの発言から目的に応じて必要な情報を取り出す問題や、段落や意味のまとまりなどの構成を意識して文章を書くことに関する問題が出題されました。また、タブレット端末での情報処理に関する出題があり、ICTを活用した日常的な言語活動が意識されているように思われます。さらに、単なる文法や言葉の知識を問うだけでなく、表現の意図や効果を読み取り、記述内容の評価や要約を問う問題も複数出題されました。

### 《 今後に向けて 》

- ・発言の意図を説明する問題に関しては、全国・京都府の水準を超える正答率が見られました。日常の発表や討論の活動の効果が見られます。
- ・書く問題に関して、無解答のものが全国・京都府の水準よりも多く見られました。話すことから書くことへの応用学習を進めるとともに、書いて考えを伝える表現の工夫をすることや、目的に応じて書く内容を編集する学習を取り入れて行う必要があります。

各設問で全国・京都府の水準と同程度の数値でしたが、上記の課題を意識し、今後の国語の学習に取り組めます。

## 数学

### 《 問題のポイント 》

#### ① 数と式

数と式の基本的な知識・計算については、正答率が高い傾向がみられました。特に意識して指導してきた、「文字を使う必要性」について、高い理解が見られたことから、今後も、単に計算方法を身に付けるのではなく、文字や式を用いることの意味を重視した指導を継続していきます。

#### ② 図形

苦手としている生徒が多い単元であり、全校平均と比較して最も乖離した結果となりました。証明については、図に示された場合に限定せず、「どのような場合にも成り立つ」ことに気付かせるため、視覚教材（主にロイロノート）を活用した指導を試みてきましたが、十分な定着には至りませんでした。今回の結果から、生徒には、既習の性質を用いて結論を見いだす演繹的な推論だけではなく、結論から必要な情報を逆向きに考え、必要な根拠を見いだす力に課題があると考えられます。今後は、証明の手順を習得するだけではなく、逆向きに推論する力の育成を図ります。

#### ③ 関数

基礎知識については概ね定着している結果でした。一方で、既習の知識・技能を活用して問題を解決する力には課題が見られました。今後は、実生活に即した場面や具体的な事象を題材として、既習事項をどのように活用すれば課題を解決できるのかを考える機会を増やし、知識・技能を活用する力の育成を図ります。

#### ④ データの活用

授業では、データの読み取りに必要な基本的な知識の習得にとどまり、実際に生データを分析する活動が十分ではありませんでした。そのため、データを分析する問題については、慣れていない様子が見られました。

表（度数分布）、グラフ（ヒストグラム）、図（箱ひげ）など、複数の分析手段を活用でき、データ解析の有用性や魅力を実感できる単元であることから、今後は、実測データ等を積極的に活用し、生徒自身がデータを収集・分析し、そこからわかることを考察する活動を取り入れていきます。

## 《 今後に向けて 》

今回の調査結果から、基礎的・基本的な知識や技能については一定の定着が見られる一方で、既習事項を活用して課題を解決したり、問題の条件を読み取り、必要な情報や根拠を見いだす力に課題があることが明らかになりました。

今後は、知識・技能の定着に加え、それらを活用して考える場面を意図的に設定し、数学的な思考・判断・表現力の育成を図っていきます。

## 生徒質問紙調査

### 【全国・京都府と比べて良好だった項目】

- ・友人関係に満足している。
- ・将来の夢や目標を持っている。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ・学級では人と違う意見を言っても否定されない
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- ・勉強したことが、将来、社会に出た時に役に立つと思う。
- ・先生はあなたの良いところを認めてくれている。
- ・生徒同士で英語で問答したり意見を述べあったりする活動が行われている。
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を収集・整理して発表する学習活動ができています。
- ・学級活動では話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- ・生徒同士で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができている。



※ 生徒達の将来に向けての前向きな姿勢、生徒間の良好な関係性が示されました。

また、教員への信頼度の高さや、学習支援の姿勢への評価も見取ることができました。

本結果を踏まえ、今後も生徒の良い面を伸ばし、生徒達が高め合いながら成長していける支援を続けていきたいと考えます。

### 【全国・京都府と比べて改善の余地が見られる項目】

- ・教科に関する意識。
- ・ICTを活用した学習状況。
- ・学校外での学習習慣。
- ・1日当たりのスマートフォンや携帯電話、PC、タブレット、ゲーム機、テレビ等の視聴時間。

※ 教科の理解度は全国・京都府の水準とほぼ同等でありましたが、得意・好きという意識面では水準を下回る結果となりました。ICTを活用した学習状況では、特に、キーボードでの文字入力操作が水準を下回りました。授業の中で各教科の持つ魅力をさらに伝えられるよう取り組んでいくとともに、キーボードを使う機会を意識的に設けるよう授業改善に努めます。

また、スマートフォン等でのSNSやゲーム、動画視聴の時間が全国・京都府の水準よりも長いことが分かりました。スマートフォン等の長時間の使用が目立つ場合には、使用方法について留意が必要です。一方、「スマートフォンを持っていない」と回答した生徒は、全国水準の約5倍でした。

## 全国学力状況調査英語科分析

### 《概要》

全国学力状況調査の英語科では学習領域を「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の4項目に分けて調査を行っている。その4項目を「聞くこと」「読むこと、話すこと」と「話すこと」の3項目にして結果を出した。

### 《出題傾向》

#### 聞くこと

聞くことでは、カフェでの注文や学校説明会の説明などの日常会話の理解を測る問題に加え、職業体験や社会の住みやすい街づくりについての発表などアカデミックな内容の理解を測る問題などが出題された。インタラクティブ形式なものとスピーチ形式のもの両方が出題されており、学習指導要領で示されている、「やり取り」と「発表」の内容を聞いて理解できるかが問われていた。

#### 読むこと

読むことでは、従来型の長文形式のものに加えて、メールやメッセージ上でのやり取りなど現代社会でよく遭遇する場面設定の問題も多く出題された。問いに関しては、細かな文法理解よりも、文章全体の概要をとらえることができているのかを問うものが多く上がった。また、英文の理解だけではなく、内容をグラフやイラストと結びつける問題も出題が多くされており、理解した文章を整理する力が求められた。

#### 書くこと

書くことでは、自分の意見を論述する問題に加えて、与えられた情報を使い状況描写として書き表す問題が出題された。単純な自由英作文ではなく、ある文章を読んだことについての考えを書く問題も出題され、書くことの能力に加え、読むことも求められ学習領域の枠を超えた問題も出題された。

#### 話すこと

話すことでは、友人との日常会話に関する出題が多く出題された。日常会話の内容も返答だけではなく理由をつけて答えたり、相手に依頼をしたりするなど、自分の答えに+αが必要なものも出題された。また、社会的な話題についての自分の考えと理由を話す内容も出題され、単純な英語力だけではなく、思考力も問われていた。聞くことの概要にも記載したが、学習指導要領の「やりとり」と「発表」の両方をおさえた出題となっていた。

### 《結果分析》

4技能すべてを総合した結果を見ると、「聞くこと」「話すこと」に関しては京都府、全国とそこまで大きな差は生まれなかったが、「読むこと」「書くこと」に関しては差があると認めざるを得ない。安祥寺中学校の現3年生は、1年次から「話すこと」を中心に授業展開を行ってきた。その成果が一定結果として表れていると考えることができる。一方で、「読むこと」「書くこと」への課題がまだ大きく残っている。自分が話すことや聞くことなど、音としては英語を取られることができているが、音と文字のつながりが未熟であることが結果からも明白である。今後の教育活動の中でこれらの力を育てていくことで、英語力全体の向上が見込めると考える。

